

府中若者会議結果

若い世代の市民に集ってもらい、まちづくりについて意見交換を行うことで、第6次府中市総合計画後期基本計画の策定に向けた参考とするとともに、協働によるまちづくりを実感してもらえイベントとして、「府中若者会議」を開催しました。

なお、この結果は、各課の後期基本計画検討において参考としています。

会議の概要

日 時：平成 28 年 11 月 13 日（日） 13：00～16：00

場 所：府中駅北第2庁舎3階会議室

参加者：18歳～40歳の市民・協働推進員 28名（市民：9人 協働推進員：19人）

コーディネーター：山ノ内凜太郎氏

狙 い：日頃まちづくり活動に参加する機会の少ない若者世代の声を聴く事で、今後のまちづくり活動への参加や協働の推進、総合計画への活用につなげることを目的としている。

内 容：1．開会

2．アイスブレイカー

3．ストーリーテリング（主催者である市職員の想い）

4．マグネットテーブル（若者と市役所・まちづくり活動との間に感じている「壁」とは何か？その「壁」はどのようにすれば取り払えるか？）

5．ラブレターづくり

6．諸連絡

7．閉会



テーマ

若者と市役所・まちづくり活動との間に感じている「壁」とは？
その「壁」はどのようにすれば取り払えるか？

【提案された壁】

- ・「情報」の壁
- ・「興味」「関心」の壁
- ・「意識」の壁
- ・「時間」の壁

壁のテーマ	意見
「情報」の壁	<p>情報不足・情報格差 「情報を発信する側」の問題として、わかりやすく情報を発信できていない、提供すべき情報を提供していないなどが挙げられる。 ○市が開催する会議は、どのようなことをする集まりなのかわかりづらいため、人を誘いづらい。 ○「情報を受け取る側」の問題として、情報へのアンテナを張っていない、張り方がわからないなどが挙げられる。 職員には、市民の情報を知るのが怖いという意見もある（職員個人ではすぐに応えることができないため） 情報格差をなくすため、市民同士で、身近な人に自分の知っていることを話していく、伝えていくことが大切。 ○気軽に情報交換ができるよう、市民・市の職員問わず、友人づくりに取り組み、自分の情報を積極的に発信していくことが必要。 市職員においても、得た情報を庁内で関係部署に伝達、連携すべき。</p> <p>情報共有の場 市民を呼んで会議の場を設けても、話しっぱなしで終わっている。 市民と市の接点を作る場のハードルを下げるべき（市民向け会議を開催する際に目的・参加対象を明確にしすぎない、日常生活の中で市民と職員がたまたま話をできるような接点（食堂解放など）をつくる）</p> <p>情報のマッチング あることをやりたい主体（市民・市）の情報が、その情報を受取りたい（あるいは、受け取ってほしい）側の主体に届いていない。 やりたい主体と受け取りたい（受け取ってほしい）主体双方の情報をマッチングさせるきっかけづくりが大切。そのためには普段から様々なつながりをつくる努力が必要。</p> <p>情報発信ツール フェイスブックや SNS など、もう少し気楽な情報発信ツールを活用していくべき。 ツイッターやまとめサイトなど多様な方向からの情報発信が必要。</p> <p>情報の伝え方 人口減少や震災危機など、特に市民に伝えるべき重要な情報は、わかりやすく、かつ自分事として実感できるように発信することが必要。</p>

壁のテーマ	意見
「意識」の壁	<p>行政の意識・姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市で全てをやろうする意識の改革が必要。 ○市は、若者がやりたいことを提案しやすい雰囲気を作っていくことが必要。 ○市は、若者からの新しい提案を活かす場づくり、若者が自由にやりたいことができる場づくりを進めて行くことが必要。 <p>協働の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民と市、それぞれの主体が、毎回同じ役割を担うのではなく、それぞれの取組みの中で、バランスを保ちながら、取り組んでいくことが必要。 <p>市民と市のお互いの信頼関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民も市もお互いを知らないため、それぞれのできることに、やりたいことがわからず、距離感・先入観を持ってしまっている。その結果として協力したり、気軽に会議に参加したりということが難しくなっている。 ○互いの距離感をなくすため、日常生活の中で市民と職員がたまたま話ができるような接点（食堂解放など）を創出し、お互いを知り、友人を増やしていくことが必要。
「興味」「関心」の壁	<p>興味のなさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者がまちづくりに興味を持っていない。 ○市民も市も互いに無関心であるため、そもそも克服すべき「壁」を感じていないことが問題。 ○若者（学生）に興味を持ってもらうため、授業の一環に置き換えて、まちづくりに関わる事が出来るキッカケ、機会が必要。
「時間」の壁	<p>物理的時間のなさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民が平日にまちづくりに参加できるよう、市から各企業にアプローチできないか（平日のまちづくりの会議に、従業員（市民）が参加できるように考慮してくれるよう、企業に依頼するなど）。 ○市職員のフレックスタイム制度を検討（日中働いている人が週末に市役所に相談できるように）。 ○労働時間の短縮が必要。 <p>優先順位の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりの会議に出ること自体の優先順位を上げること、モチベーションを上げることが必要。そのために、会議の参加で得られる結果が見えること、まちづくりの会議と一緒に参加する仲間がいることが重要。 ○家や会社など周囲の理解が必要。そのために、地域も含めた積極的なPRが必要。

アンケート

今回参加したことで、ご自身のまちづくりへの意識や、
これからの生活・行動に何か変化は起こりそうか。

主な意見

- 市民と市の距離感が縮まったと感じる。
- まちづくりについて話す身近な人（近所、子どもの学校関係の友人など）をつくろうと思った。
- 「最初にゴールをはっきり決める」重要性を学び、今後の協働の取組みでも意識していきたい。
- 同世代の市民と市のコミュニティが広がれば、行政サービスを行う上での大きな武器になると感じた。
- 生活の中で参加できる協働やまちづくりに、壁にめげることなくチャンスを見つけて参加していきたい。

このような機会がある場合に、希望するテーマや内容は何か。

主な意見

- 高校生や大学生などのもっと若い市民と、同じようなテーマで話をしてみたい。
- テーマを絞らずに、人とつながれる機会に参加したい。
- まちづくりの具体的な事柄について話し合う場が欲しい。
- 市の現状把握と未来図を知る会のようなものがあれば参加したい。
- 1回で終わるのはもったいないので、連続性のあるものにしてつながっていききたい。

若い世代のまちづくりへの関わり方について

主な意見

- ボランティアなど、学生の専門知識が活かせる分野で連携できたらよい。
- 若者は、まずは要望でもよいので、市に思いを伝えてみるなど、声を出すことが必要。また、身近な人達と色々話すことも必要。
- 市が情報を継続的に発信し共有しつづけることで、若い人たちの“いつか少し手が空いたら、手伝える”という気持ちの持続につながり、結果的にそれぞれのタイミングで若者に関わってもらえることにつながる。
- そもそも何で若い人の考えや意見が必要なのか、明確にしてほしい。それを踏まえた上で、大学生をはじめとした若い人が主体的に活動できる機会を設ける必要がある。
- 自分が楽しいからまちづくりに参加するという動機が一番だと思う。まちづくりが楽しいという切り口で発信してみるとよい。